

第2回全国大学生マーケティングコンテスト発表報告

第9期生 水田 弥英
第10期生 全先 伸一 石井 隆太
第10期生 Darlene Yen Ord
(特別聴講生)

◆全国大学生マーケティングコンテストとは...?

全国大学生マーケティングコンテストは、神戸市外国語大学が主催するビジネスコンテストです。コンテストの特徴としては、プレゼンテーションを全て英語で行うことが挙げられます。第2回となる今年度は、「神戸ハーバーランドの集客数を向上させる為のプロモーション戦略の立案」が課題でした。このコンテストに、小野ゼミからは有志で集まった第9期生水田、第10期生全先・石井・オードの4人がチームを結成し、優勝を目指して参加しました。



発表前のメンバー（左から石井・オード・全先・水田）

◆発表の概要

「神戸ハーバーランド」は、多数の商業施設を有する商業地区です。本コンテストでは、同商業地区の観光客増加を実現する、SNS (Social Network Service) を用いたプロモーション戦略の策定が求められました。我々は関東在住のデートプランに悩む男性を新規顧客としてターゲティングし、関西弁を用いた同商業施設のプロモーション・ビデオと、様々な種類の SNS を活用した「Social Media Mix 戦略」を提案しました。

10月からその準備が始まったこの大会は、プラン選考→関東予選→本大会という3つのステップを経て、12月15日にその幕を閉じたわけですが、約2ヶ月の間、3年生は三田論、4年生は卒論を抱えながら、本コンテストに参加しました。第1ステップであるプラン選考とは、提案するビジネスプランの概要を、PowerPoint ファイル5枚にまとめ上げるという課題でした。第2ステップである予選会では、関東地区と関西地区に分けられ、各地区において、第1ステップのプラン選考を勝ち抜いたチームが、本大会出場を懸けて熱いバトルを繰り広げました。第3ステップである本大会は、全国から集められた強豪校が一同に介し、海外観光客を新たなターゲットとして加えたビジネスプランの集大成を、多数の実務家の審査員と大勢の聴衆の前で発表する場でした。

この大会で第2回目となる全国大学生マーケティング大会に、小野ゼミは、第1回目に引き続いて、決勝大会に進むことができました。決勝大会において、今年は見事、準優勝の荣誉に浴すことができました。来年は優勝できるよう、頑張っていきたいと思います。

◆発表後記（第9期生 水田 弥英）

昨年度、第1回大会に出場したものの、8位入賞で終わってしまった私は、雪辱を果たしたいという安易な動機で、今回の参加を決めました。英語もビジコンも苦手な私が、果たしてチームに貢献できたかはわかりませんが、3年生である第10期生が成長した姿を間近で見ることができ、非常に感慨深い3か月間でした。さらに、大会後には、同大会に出場していた慶應義塾大学商学部の2年生チームと共に打ち上げをしたり、



インタビューを受ける水田（右端）

第10期聴講生のダーリーンと岩盤浴しながら女子トークができたり…非常に楽しい時間を過ごすことができました。誘ってくれた全先君に改めて感謝したいと思います。ありがとう！

◆発表後記（第10期生（特別聴講生） Darlene Yen Ord）

とてつもなく負けず嫌いな私にとって、正直、2位は最下位と変わらないと思いました。6ヶ月間の短期留学で小野ゼミに入って、やはり勝って何かを残したいという気持ちが強かったのです。でも、失敗は成功の素だと考えなおせば、今回のマーケティングコンテストはとても貴重な経験になったとも思います。メンバーが卒論や三田論で時間がないせいで殆ど集まらず、練習も殆どせず2位を取れたのは、よく考えてみれば奇跡的です。それは、やはり小野ゼミのクオリティの高さの賜物でしょう。そのことに、私は何よりも感動しました。プレゼン資料はもちろん、発表自体もとてもスムーズにいき、終わったあと、ご覧になってくださった何人かの方に声をかけられて、小野ゼミのプレゼン



準優勝では納得できないオード

が一番良かったと言われました（これは私にとっての唯一の救いでした）。チームのみんなに影響されて、自分のプレゼン力も確実に上がりました。今回のコンテストを通じて経験したことを、これから始まる日本での社会人生活に必ず生かしたいと思っています。

◆発表後記（第10期生 全先 伸一）

（自称）マケコン代表の全先です！！本当に準優勝は嬉しいです。正直、関東予選は通らないと思っていましたが、驚きました。ほとんど準備していなかった小野ゼミチームは決勝大会前日にも1度も合わせて練習していないのに、不思議と発表を無事に終えることができました。良い意味で、驚きました。普段、小野ゼミで、何度も発表経験や資料作成経験を積んできたからだと思います。だから、好成績が残せたのも、小野ゼミのおかげであると強く感じました。神戸で行わ



全てが終わり、神戸で爆睡する全先

れた決勝大会は、誰一人予定したセリフを完璧に言えた人はいません。しかしながら、持ち前のアドリブとジェスチャーのスキルでその場を乗り切ったような気がします。水田さんは資料作成、ダーリーンは英語、全先はリーダー、石井君はパフォーマンスといったように、各自の良いところが発揮された決勝大会となったと言えるのではないかと思います。しかし特筆すべきことに、ダーリーンが「準優勝はビリと一緒に」という名言を残してくれました。私も準優勝でいつまでも喜んでいられません。彼女のようにアドレナリン全開で今後の人生を歩んで行かなくてはと思いました。

◆発表後記（第10期生 石井 隆太）

小野ゼミでは通称「マケコン」と呼ばれるこの大会、今年は全先が発した「マケコン出たい！」の一言から始まりました。私は、仲間を集めることに苦労している彼を見るに見かねて、ある意味「仕方がなく」マケコンメンバーになりました。各々他の活動を優先して、マケコンに充てる時間が少なくなってしまうことも多々ありましたが、皆で力を合わせて「締切り2分前、路上でのプラン選考提出」、「道に迷った関東予選会」、「新幹線に乗り遅れた本大会」などの、幾多の（自ら生み出した）困難を乗り越えて、見事準優勝を果たせたのだから、大変満足です。「マケコンやろう」と言った全先、スライドの達人水田



懇親会にて嬉しそうな石井

さん、そして英語指導教官のダーリーン。もし、このうちの誰一人が欠けていても、この結果は残せなかったらと思います。このマケコン出場をとおして、「英語力」や「マルチタスク遂行能力」、「どんなバタバタ劇にも動じない強靱な精神力」に磨きがかかったことは言うまでもありませんが、何より、マケコンだからこそ実現したこのメンバーで活動できたことが、本当に楽しかったです。全先、出場してよかったなー。これで、俺らも全国2位の実績ができたわけだ 笑。準優勝の賞品で頂いた電動歯ブラシは、お陰様で毎日使わせてもらっています。